

科目名 Course Name	ピアノ演奏法 I Piano performance method I			ナンバリング No.	K1-011		
年次	1 年	期別	前期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	岡泉志のぶ 中沢充恵 山田飛鳥 川田将人						
連絡先(質問等)	講義棟3Fか講義棟1F、オフィスアワーは月・水・木・金 電話番号・メールアドレスは授業中に提示						
必修/選択	選択(保育士養成課程選択必修科目)						
関連 DP	DP2、DP5						
授業の概要と到達目標	<p>子どもの幼児期の成長過程における音楽教育は非常に重要であり、多くの保育園、幼稚園で音楽は生活全般に取り入れられている。この授業では、保育の現場で必要な基礎的なピアノ奏法、テクニック、伴奏法の習得を目標として、ピアノ未経験者や初心者もバイエル教則本を使用し、それぞれのレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行う。また個々の進度に合わせた課題を与えることにより、子ども達に音楽的な表現を豊かにする指導が出来るようになるためのピアノ基礎技術の習得を図る。</p> <p>この授業の到達目標は以下4つである。</p> <p>①保育現場にピアノ技術は必須であるという意識を持ち、ピアノの練習を習慣化できるようにする。 ②音楽に関心を持ち、ピアノ演奏を通して表現する楽しさを味わうことができるようにする。 ③音楽の基礎理論(音符や休符、リズム、拍子など)を覚えて、幼児曲を伴奏できるようにする。 ④授業内容に沿って、バイエル教則本 70 番台の曲を終了できるようにする。</p>						
授業の方法	<p>演習(実技)科目であり、個別指導を基本として個人レッスン形式で行う。その際、各学生の能力に応じた教材や進度を的確に判断し、グループ演奏発表も含め個々に適した以下の授業内容と方法で進めることとする。</p> <p>以下には標準的(ピアノ未経験者、初心者に適した)授業計画を示す。</p>						
学習成果	L01	ピアノ練習の習慣化を身につけ、ピアノを弾くことの楽しさや達成感を得ることができる。					
	L02	ピアノの基本である読譜力をつけることができる。 基本的な伴奏法を用いた簡単な幼児曲の伴奏や他の楽曲を演奏することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	個々の学生のレベルに応じて課した技術的課題について、毎回授業内でフィードバックする。発表については、終了時と最終授業日に講評する。						
教科書/参考図書	テキスト:ピアノ未経験や初心者の学生はバイエル教則本(全音楽譜出版社)、それ以外の学生は進度に応じてブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム、ソナタアルバム(全音楽譜出版社)、他						
履修上の留意点やルール等	●短い時間でも毎日ピアノに触れ練習すること。●使用教室への飲食持ち込みは禁止とする。 ●事前、事後学習に費やす時間は45分とする。						
担当教員の実務経験	●主担当:岡泉(職種:ピアノ講師 職歴:通算20年)、担当教員(非常勤講師):ピアノ講師歴あり ピアノ講師としての実務経験を、学生が保育の現場で必要なピアノ演奏技術の習得に活かす。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	毎回与えられた課題を日々練習して授業に臨んでいる。	30			
レポート/作品					
発表	担当教員全員の前で1曲弾き歌いし、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全受講者の演奏を採点し、その平均点を評価とする。		50		
小テスト					
試験					
その他	曲の進度による評価をする。初心者でもバイエル70番程度を弾くこと。		20		
合計		30	70		

回数		授業計画
1	授業内容	授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当別:教材の選定と課題提示
	事前・事後学習	各自与えられた課題と練習方法を理解し練習する。また、生活の中でピアノを弾く時間を確保できるように今後のプランを立てる。
2	授業内容	右手ト音記号の音符と休符の種類(バイエル 10 番～20 番程度)
	事前・事後学習	音符(全音符・二分音符・四分音符)と休符について復習する。
3	授業内容	左手ヘ音記号の音符と奏法 リズムと拍子(バイエル 20 番～30 番程度)
	事前・事後学習	ヘ音記号の楽譜について復習する。
4	授業内容	運指法:指の運指と伴奏法 両手の奏法 速さ・強さに関する表示法、曲想・奏法に関する表示法(バイエル 30 番～40 番)
	事前・事後学習	レガートで弾くための運指を守り、楽譜通りに練習する。
5	授業内容	ハ長調の理解と各曲の習得① 楽譜の確認(バイエル 40 番～50 番程度)
	事前・事後学習	八分音符と付点四分音符の音価とハ長調について復習する。
6	授業内容	ハ長調の理解と各曲の習得② リズムと拍子(バイエル 40 番～50 番程度)
	事前・事後学習	ハ長調の左手伴奏パターンを練習する。
7	授業内容	担当者別:グループ演奏発表と講評
	事前・事後学習	各自の課題を受け入れ、注意点を意識して練習する。
8	授業内容	調性の違い 長調と短調(バイエル 50 番程度)
	事前・事後学習	バイエル60番の長調と短調の響きの違いを意識して練習する。
9	授業内容	ヘ長調と各曲の習得(バイエル 60 番、62 番、64 番、66 番程度) 幼児曲:簡単な伴奏法を用いた簡易伴奏法①
	事前・事後学習	ヘ音記号の読譜力をつけて練習をする。ト長調と#調号について復習する。
10	授業内容	ト長調と各曲の習得(バイエル 72 番、73 番、74 番程度) 幼児曲:簡単な伴奏法を用いた簡易伴奏法②
	事前・事後学習	#調号の意味とト長調について復習し、72 番、73 番、74 番を練習する。
11	授業内容	実技発表の課題曲の指導① 楽譜の確認(バイエル 72 番、73 番、77 番程度以上)
	事前・事後学習	調号に注意して課題曲の練習をする。
12	授業内容	実技発表の課題曲の指導② 楽譜の確認(バイエル 77 番、78 番程度以上)
	事前・事後学習	各自、課題曲の指導されたポイントに留意して練習する。
13	授業内容	実技発表の課題曲の指導③ 楽曲の完成と暗譜(バイエル 70 番程度以上)
	事前・事後学習	音だけでなく楽譜上の指示(スタッカート等)や運指も含め暗譜する
14	授業内容	実技発表(各自発表) 発表後の講評
	事前・事後学習	人前で演奏をした経験を通して、練習方法の見直しや、これからの練習の学習環境について考える。また提示された幼児曲を練習する。
15	授業内容	課題曲指導 日常のうた (曲例) 朝のうた さよならのうた おべんとう
	事前・事後学習	日常のうた 3 曲を中心に後期に備えて練習する。